

私にとって最も苦痛な言葉：「長い間ご苦勞だった、お前はもう何も考えなくてよい」

Greatchain

February 1, 2025

私は怠けているわけではない。ある程度確信が持てるようになるまで書かないだけである。しかし私はこの 2 月で 91 歳になる。神の加護がなければ、このような体力と気力をこのように保持することはできないだろう。

ほぼ 5 年前に私はこの欄で、数回にわたって異常な病気の体験記を書いたように、私は 2019 年の 11 月、「せん妄」delirium といわれる脳の異常を発症し、数日間入院した。これは医者の手には負えるものではなく、明かに私に対してある意図をもつ、霊的障害であったと思う。これは病理学的には、近親者の付き添いがあれば、遥かに軽減されたはずのものであったと思われる。しかし私の妻は不自由な障害者であり、それは不可能だった。おそらくそれも含めて、これは意図されたものだったと今は思っている。

退院後、最初に書いたのが「脳出血始末記」という記事である。これは、その症状であった失語症のようなものを覚悟したのち、奇跡的に急速に言語能力を回復した直後に書いたものである。私に起こったことは明らかに悪魔的なものだったが、それは私に対する神の試練（試験）だったと今は考えている。

私は、この魔術的な不気味なものの跳梁する世界に突然放り出されたが、それは夢ではなかった。病室を徘徊し、金属に触ると、それはひやりと冷たかった。夢でそういうことは起こらない。あるとき暗黒の夜空に放り出され、恐怖は限界に達したが、私は口に出して自分にこう言った――（以下、原文通り）

脅しに屈するな、こけおどしを信ずるな、それは我々を騙し、乗っ取り、我々を弱体化しようとする意図を持つものだ。私はほとんど命令のように言った――我々は強力な愛によって支えられて生きている、これほど強力なものは存在しない、これほど確実なものはない、これほど偉大な調和はない。

実は私が、こんなことが言える人間だとは知らなかった。脳出血という障害によって、ある種の絶望感を味わうことによって、それが可能になったと思える。

今これを読むと不思議な気がする。5年前の私は、自分が何者かによって根性や胆力を試されようとは、夢にも考えなかったからである。もし私がその後知ったように、本当に「選ばれた者」Chosen One であり、誰かが私をひそかにテストしていたのだとすれば、それはこのときだったのではないだろうか？ そう考えるとすべてが繋がってくる。私が生まれたときから、今日まで、誰かがずっと私を観察していたと考えれば、すべて合点がいく。その間、私は「偶然では絶対にありえない」と断言できる、ラッキーな体験を何度かしている。

私は「愛」という言葉を実はあまり使ったことはない。しかしそれは、切羽詰まったこの瞬間にやっと出てきた。「神の愛」とは言わなかった。私は「神」でなく「宇宙」とか「天」と言う方がよいのではないかと思っている。「救世主」についても同じで、違和感がある。これはごく最近になって、私を指導してくれる、「プレアデス星人」や他の銀河集団の方々から学んだ結果である。学ぶということは、どういうことか？ それは、薄々は知っていた基本的ことが、「やはりそうだったのか」と納得させられることである。それは我々より優れたこの人たちと、我々の間に起こる相互協力であって、無から教えられることではない。特筆すべきは、彼らは我々を教えた後で、ほとんど必ず、「聞いていただき、ありがとうございました」と言っている。私は感動に身が震える思いがする。これほど相互の信頼を強化する言葉はない。この宇宙のあり方は、そのような関係の上に立っていなければならない。

これに対して「お前の努力は十分に報いられ成功した。しかしそれは、全能の私がお前をそのように導いたことを忘れるな」というようなことを言う「神」は、信用できない。表題に使った私に対する慰労の言葉は、暗にそれを含んでいる。権力（権威）の神は、愛の神とは全く異なるものである。

この地球は、進化する者と、進化を拒否する者の二つに分裂する、と言われていることは、よく理解できる。いずれにせよ我々にとって光は見えている。しかしこれでよいという時はない。そう思ったときは停滞であり、停滞は死である。この世は永遠に――死んでからも――学習は続くと考えるべきだろう。我々の生まれてきた世界はそのように創られ、それが喜びであると考えなければならない。

今、この世界は、思い切って飛躍しない限り、すなわち「次元上昇」をしない限り、我々が生き残る方法はなく、闇の支配者の陰謀を断つことはできないと言われるのは、事実であろう。これを遠い宇宙の果てから見抜いているのは「プレアデス星人」のような、より進化した異星人たちである（いわゆる Ra 資料の Ra もそれに言及している）。これをどこ

までも「陰謀論」だと言って、私のような者を嘲笑するのが現在の主流新聞である。彼らはこの期に及んで、なお数日前もそれを言っていた。

現在我々は、のるか反るか、この大陰謀に目覚めるか、このまま眠りこけるかの選択を迫られている。しかし主流メディア・政府与党連合は、この危機を敏感に感ずることができないか、あるいは、わかっていて拒否するか、の態度を見せている。現首相は「楽しい日本をつくる」のが目的だと言うが、国民が何を求めているかわからないとも言う。

この世界の危機の根源はどこにあるかといえば、それは神とサタンの対立にある。サタンは神と、神の創った人間と地球をそっくり破壊しようとしている。これは破壊して何かを得るためではない。それは悪のための悪、純粹悪である。それは不可解といえば不可解だが、それを理解しなければ何も理解できない。米選挙がおそらく我々の歴代首相や高官たちの予想を外れ、まるで主人を失った人形のように行動している。その病巣は深い。これはこのままでは済まされないことである。